

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 発達と老化の理解 I	授業の種類 講義 ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 井上 典子
授業の種類 15	時間数 (単位数) 30 (2)	配当学年・時期 1年 ・ 前期	必修・選択 必 修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>最初に人間の成長と発達について理解した上で、発達の観点から老化に伴って生じるところとからだの変化について基礎的知識を学ぶ。また、これらの学習を通して老年期にある人を多面的に理解するとともに、老いや死を肯定的に捉えたり、老年観・人生観・死生観などについて考えたりなどの機会を持つ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>人間の身体機能と精神機能の年齢に伴う変化とその日常生活への影響についても理解する。まず、発達の観点から『老化』を理解し、次に老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関して、基礎的知識を身につけていく。講義中心に行い、適宜、ビデオ学習やディスカッション、課題レポート提出を求める。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 人間の成長と発達の基礎的理解ができる 2) 『老年期』の発達と成熟について理解ができる 3) 老化に伴うところとからだの変化と、それにより日常生活に及ぶ影響について理解できる 			
<p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1・ 導入 高齢者心理理解の必要性 「老年期」には何が起るのか 2・ 人間の成長・発達における基礎的知識 「成長・発達の考え方」について 3・ 人間の成長・発達における基礎的知識 「成長・発達の原則・法則」について 4・ 人間の成長・発達における基礎的知識 「成長・発達に影響する要因」について 5・ 人間の発達段階と発達課題 「発達理論」ならびに「発達段階と発達課題」について 6・ 人間の発達段階と発達課題 「身体的機能の成長と発達」ならびに「心理的機能の発達」について 7・ 人間の発達段階と発達課題 「社会的機能の発達」について 8・ 老年期の特徴と発達課題 「老年期の定義」ならびに「老化」について 9・ 老年期の特徴と発達課題 「老年期の発達課題」について1 諸理論と諸問題について 10・ 老年期の特徴と発達課題 「老年期の発達課題」について2 「老年期をめぐる今日的課題」について 11・ 老化にともなうところの変化と生活 「老化にともなう身体的な変化と生活への影響」について 12・ 老化にともなうところの変化と生活 「老化にともなう心理的な変化と生活への影響」について 13・ 老化にともなうところの変化と生活 「老化にともなう社会的な変化と生活への影響」について 14・ 高齢者と健康 「健康長寿に向けての健康」について 15・ まとめと考査 (定期試験) 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>中央法規出版 発達と老化の理解</p> <p>※ 参考文献 経済界ワークシート式 はじめての心理学 著者 井上のり子</p> <p>※ 適宜、プリントを配布し、課題を課す</p>		<p>[単位認定の方法および基準]</p> <p>成績評価基準 (評価割合を%表示) 定期試験 50% レポート 30% 授業態度 20% (基準 : 60 点以上合格)</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 発達と老化の理解Ⅱ	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 今井 訓子
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間（2単位）	配当学年・時期 1年 後期	必修・選択 必 修
<p>[授業の目的・ねらい] 発達に尾観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴についての基礎的知識を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 老化にともなうところとからだの変化と生活への影響について学ぶ。 高齢者に多い病気とその留意点について学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 老化にともなうところとからだの変化と生活について理解できる。 高齢者と健康について理解できる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数</p> <p>老化にともなうところとからだの変化と生活への影響</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老化にともなう身体的な変化と生活への影響（骨格系・筋系、脳・神経系、感覚器系） 2. 老化にともなう身体的な変化と生活への影響（循環器系、呼吸器系、消化器系） 3. 老化にともなう身体的な変化と生活への影響（腎・泌尿器系、内分泌・代謝系、免疫系） 4. 老化にともなう知的機能の変化と生活への影響 <p>高齢者と健康</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 高齢者の症状・疾患の特徴 6. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（骨格系・筋系） 7. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（脳・神経系） 8. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（皮膚・感覚器系） 9. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（循環器系） 10. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（呼吸器系、消化器） 11. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（腎・泌尿器系、内分泌・代謝系） 12. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（歯・口腔系、悪性新生物、感染症） 13. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（精神疾患、その他） 14. 保健医療職との連携 15. まとめ・試験 			
[使用テキスト・参考文献] 発達と老化の理解（中央法規）		[単位認定の方法及び基準] 確認テスト成績、授業態度、集積用検討を加味し、総合評価する。（基準：60点以上を合格）	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 認知症の理解 I	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 塚本 淳智 岩出 義隆
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 (2)	配当学年・時期 1年 前期	必修・選択 必 修
<p>[授業の目的・ねらい] 疾患としての認知症について理解を深め、その人らしさを大切にする介護ができる基礎的能力を養う。 認知症医療の歴史を踏まえ、認知症のある人を取り巻く環境について学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 認知症の原因・症状・予後など、認知症という疾患がたどる経過について学習する。 認知症の疾患特性から生じる様々な障害や、行動様式について学習する。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 疾患としての認知症について理解することができる。 認知症のある人を取り巻く環境について理解することができる。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			担当教員
コマ数			
1	認知症とは何か		岩出
2	認知症の人の心理		岩出
3	脳のしくみ		塚本
4	中核症状の理解		塚本
5	生活障害の理解		岩出
6	BPSDの理解		塚本
7	認知症の診断と重症度		塚本
8	認知症の原因疾患と症状・生活障害①		塚本
9	認知症の原因疾患と症状・生活障害②		塚本
10	認知症の治療薬と予防		塚本
11	認知症を取り巻く状況①		岩出
12	認知症を取り巻く状況②		岩出
13	認知症ケアの理念と視点		岩出
14	認知症当事者の視点から見えるもの		岩出
15	終了時試験		
<p>[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版「新・介護福祉士養成講座」 13 「認知症の理解」 11 「こころとからだのしくみ」 適宜プリント配布</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 試験及び学習態度により総合的に評価する。 1) 終了時テスト 70% 2) 授業態度・提出物 15% 3) ミニテスト 15%</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 認知症の理解Ⅱ	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 塚本 淳智 岩出 義隆
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 (2)	配当学年・時期 1年 後期	必修・選択 必 修
<p>[授業の目的・ねらい] 「認知症の理解Ⅰ」の学びを踏まえ、認知症のある人のこころの変化や生活面への影響に基づく介護を展開する基礎的能力を養う。 認知症のある人及び家族を含めた支援体制のあり方と、具体的な方法について学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 認知症のある人の症状に伴う日常生活機能の変化をアセスメントし、具体的な支援を提供する方法を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 認知症のある人の日常生活機能の変化を理解することができる。 認知症のある人を尊重した支援の方法を理解することができる。 認知症のある人及び家族への支援体制の必要性を理解することができる。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			担当教員
コマ数			
1 パーソン・センタード・ケア			岩出
2 認知症の人の理解とアセスメント			岩出
3 認知症の人とのコミュニケーション			岩出
4 認知症の人へのケア			岩出
5 認知症の終末期医療とケア			塚本
6 制度・サービス・機関			塚本
7 他職種連携と協働①			塚本
8 他職種連携と協働①			塚本
9 認知症の人への様々なアプローチ			岩出
10 環境づくり			岩出
11 家族への支援			岩出
12 地域づくり①			塚本
13 ケアラーへの支援			岩出
14 地域づくり②			塚本
15 終了時試験			
[使用テ		<p>[単位認定の方法及び基準] 試験及び学習態度により総合的に評価する。 1) 終了時テスト 70% 2) 授業態度・提出物 15% 3) ミニテスト 15%</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類		授業担当者
障害の理解 I	(講義・演習・実習)		本間 直毅
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	30時間(2単位)	1年・後期	必修
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>教科書等を通して障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得する。また、心身に障害を受けている人たちの生存と生活をどのように捉え、介護福祉士として持つべき専門性について、ともに考えていきたい。</p>			
<p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>障害の概念について基礎的知識を学び、障害の特性に応じた支援を理解していく過程を通して、障害者の介助に不都合を生じさせない心構えを習得できるよう教授する。</p>			
<p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>○ 障害者福祉の基本理念、概念を理解し、障害特性に応じた支援とは何かを考えられるようになる。 ○ 障害児・者やその家族のさまざまなニーズを理解した支援のあり方を考えられるようになる。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 障害の概念と障害者福祉の基本理念 2 障害者福祉に関連する制度 3 障害のある人の心理的影響 4 肢体不自由(運動機能障害)の基礎的理解と特性に応じた支援 5 視覚障害の基礎的理解と特性に応じた支援 6 聴覚・言語機能障害の基礎的理解と特性に応じた支援 7 重複障害の基礎的理解と特性に応じた支援 8 知的障害の基礎的理解と特性に応じた支援 9 精神障害の基礎的理解と特性に応じた支援 10 高次脳機能障害の基礎的理解と特性に応じた支援 11 発達障害の基礎的理解と特性に応じた支援 12 連携と協同 13 家族への支援 14 まとめ 15 試験 <p>※ テキストの他、必要に応じて補助教材も使用。また各論・各章の順序、一つのテーマを数コマに続けての進行となる場合も有りうる。</p>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 「障害の理解」		試験成績・課題及び意欲、出席要件などを加味し、 総合評価する。(基準：60点以上)	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 障害の理解Ⅱ	授業の種類 (講義) ・ (演習) ・ 実習)		授業担当者 遠藤 憲一
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 2 年 前期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 介護と医療の連携をふまえた実践力の向上を前提として、障害のある人の心理や身体機能を理解し、地域や家族を含めた障害のある人の生活支援について学習する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 障害に関する基礎的知識・関係職種とのチームアプローチ・障害のある人を支える家族への支援について学習する。</p> <p>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の特性に応じた支援とその留意点が理解できる。 ・ チームアプローチと家族への支援について理解できる。 			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>コマ数</p> <p>【障害別の基礎的理解と特性に応じた支援】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 肢体不自由 (運動機能障害) 2 内部障害 (心臓機能障害) 3 内部障害 (呼吸器機能障害) 4 内部障害 (腎臓機能障害) 5 内部障害 (膀胱・直腸機能障害) 6 内部障害 (小腸機能障害) 7 内部障害 (ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害) 8 内部障害 (肝臓機能障害) 9 重症心身障害 10 難病① 11 難病② <p>【連携と協働】</p> <ol style="list-style-type: none"> 12 チームアプローチ <p>【家族への支援】</p> <ol style="list-style-type: none"> 13 家族への支援とは 14 家族の介護力の評価と介護負担の軽減 15 まとめ・試験 			
<p>【使用テキスト・参考文献】 障害の理解 (中央法規)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 課題の提出、及び意欲、出席要件等を加味し、総合評価する。(基準：60 点以上を合格)</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) こころとからだのしくみ I-1	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 木村 あけみ
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年 前期
必修・選択 必修		
<p>【授業の目的・ねらい】 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 介護実践の根拠となる人体の構造や機能を学ぶ。</p> <p>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】 からだのしくみが理解できる。</p>		
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション。「健康」とはなにか。 2 からだのしくみの理解① 身体各部の名称 3 からだのしくみの理解② 脳・神経系 4 からだのしくみの理解③ 感覚器系 (視覚・聴覚・皮膚) 5 からだのしくみの理解④ 呼吸器系 6 からだのしくみの理解⑤ 循環器系 (心臓) 7 からだのしくみの理解⑥ 循環器系 (肺循環・体循環) 8 からだのしくみの理解⑦ 消化器系 (胃・腸) 9 からだのしくみの理解⑧ 消化器系 (肝臓・膵臓) 10 からだのしくみの理解⑨ 腎・泌尿器系 11 からだのしくみの理解⑩ 骨格・筋系 12 からだのしくみの理解⑪ 骨格・筋系 13 からだのしくみの理解⑫ 生殖器・内分泌系 14 からだのしくみの理解⑬ 血液 生命を維持するしくみ 15 まとめ・試験 		
[使用テキスト・参考文献] こころとからだのしくみ (中央法規)		[単位認定の方法及び基準] 確認テスト成績、授業態度、出席要件等を加味し、総合評価する。(基準：60点以上を合格)

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) こころとからだのしくみ I-2	授業の種類 講義 ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 井上 典子	
授業の種類 15	時間数 (単位数) 30 (2)	配当学年・時期 1年 ・ 前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護技術の根拠となる人間の心理的側面について理解する。特に、人間の欲求の基本的な理解や感情、思考等について学び、QOLを高めるような生活支援ができるための基礎的知識を習得する。また、こころとからだは相互に影響しあい、意欲や行動などへ影響を及ぼしていることを学習する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>人間を理解する上で大切な精神医学や心理学、社会学などをもとに基礎的知識を学ぶ。また『健康』の意味や『発達』の観点を身につけ、加齢やさまざまな疾患・障害によってどのような生活障害が生じるのかを理解するための基礎を学ぶ。講義中心に行い、適宜、ビデオ学習やディスカッション、課題レポート提出を求める。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「こころ」のしくみについての基礎的知識を身につける 2) 「こころ」の日常生活への影響についての基礎的知識を身につける 3) こころとからだのしくみを理解した上で、介護場面でのさまざまな配慮や安全の視点を身につける 			
<p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1・ 導入 「健康」とはなにか 定義とそれぞれの健康観 2・ こころのしくみの理解 について 「わたし」とは何か 3・ こころのしくみの理解 について 「欲求」「自己実現と尊厳」について 4・ こころのしくみの理解 について 「脳のしくみ」について 5・ こころのしくみの理解 について 「感覚・知覚」について 6・ こころのしくみの理解 について 「認知のしくみ」について 7・ こころのしくみの理解 について 「知能」について 8・ こころのしくみの理解 について 「記憶と学習のしくみ」について 9・ こころのしくみの理解 について 「思考のしくみ」について 10・ こころのしくみの理解 について 「感情・情動のしくみ」について 11・ こころのしくみの理解 について 「意欲・動機づけのしくみ」について 12・ こころのしくみの理解 について 「適応のしくみ」について 1 ストレスのしくみと適応の異常 13・ こころのしくみの理解 について 「適応のしくみ」について 2 人格と適応 14・ こころのしくみの理解 について 「心理アセスメント・心理療法」について 15・ まとめと考査 (定期試験) 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>中央法規出版 こころとからだのしくみ</p> <p>※ 参考文献 経済界 ワークシート式 はじめての心理学 著者 井上典子</p> <p>※ 適宜、プリントを配布し、課題を課す</p>		<p>[単位認定の方法および基準]</p> <p>成績評価基準 (評価割合を％表示) 定期試験 50％ レポート 30％ 授業態度 20％</p> <p>(基準 : 60点以上合格)</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) ところとからだのしくみⅡ	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 木村 あけみ																														
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年 後期																														
必修・選択 必修																																
<p>【授業の目的・ねらい】</p> 介護技術の根拠となる人体の構造や機能の理解のもと、介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> 人体の構造や機能についての基本的な知識をふまえ、意欲や行動などに影響を及ぼす心理的な影響を理解し、それらが日常生活動作にどのように関連してくるのかを認識する。 <p>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】</p> 日常生活動作に関連したところとからだのしくみが理解できる。																																
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> コマ数 <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 30%;">1 移動に関連したしくみ</td> <td>生活の中の移動とは。</td> </tr> <tr> <td>2 移動に関連したしくみ</td> <td>移動におけるところとからだのしくみ</td> </tr> <tr> <td>3 移動に関連したしくみ</td> <td>心身の機能低下が移動に及ぼす影響</td> </tr> <tr> <td>4 移動に関連したしくみ</td> <td>変化の気づきと対応。医療職との連携</td> </tr> <tr> <td>5 身じたくに関連したしくみ</td> <td>身じたくにおけるところとからだのしくみ</td> </tr> <tr> <td>6 身じたくに関連したしくみ</td> <td>心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響</td> </tr> <tr> <td>7 身じたくに関連したしくみ</td> <td>変化の気づきと対応</td> </tr> <tr> <td>8 食事に関連したしくみ</td> <td>食事のしくみ</td> </tr> <tr> <td>9 食事に関連したしくみ</td> <td>消化器のしくみ</td> </tr> <tr> <td>10 食事に関連したしくみ</td> <td>心身の機能低下が食事に及ぼす影響</td> </tr> <tr> <td>11 食事に関連したしくみ</td> <td>変化の気づきと対応。医療職との連携</td> </tr> <tr> <td>12 入浴・清潔保持に関連したしくみ</td> <td>入浴・清潔保持のしくみ</td> </tr> <tr> <td>13 入浴・清潔保持に関連したしくみ</td> <td>心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響</td> </tr> <tr> <td>14 入浴・清潔保持に関連したしくみ</td> <td>変化の気づきと対応。医療職との連携</td> </tr> <tr> <td>15 まとめ・試験</td> <td></td> </tr> </table>			1 移動に関連したしくみ	生活の中の移動とは。	2 移動に関連したしくみ	移動におけるところとからだのしくみ	3 移動に関連したしくみ	心身の機能低下が移動に及ぼす影響	4 移動に関連したしくみ	変化の気づきと対応。医療職との連携	5 身じたくに関連したしくみ	身じたくにおけるところとからだのしくみ	6 身じたくに関連したしくみ	心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響	7 身じたくに関連したしくみ	変化の気づきと対応	8 食事に関連したしくみ	食事のしくみ	9 食事に関連したしくみ	消化器のしくみ	10 食事に関連したしくみ	心身の機能低下が食事に及ぼす影響	11 食事に関連したしくみ	変化の気づきと対応。医療職との連携	12 入浴・清潔保持に関連したしくみ	入浴・清潔保持のしくみ	13 入浴・清潔保持に関連したしくみ	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響	14 入浴・清潔保持に関連したしくみ	変化の気づきと対応。医療職との連携	15 まとめ・試験	
1 移動に関連したしくみ	生活の中の移動とは。																															
2 移動に関連したしくみ	移動におけるところとからだのしくみ																															
3 移動に関連したしくみ	心身の機能低下が移動に及ぼす影響																															
4 移動に関連したしくみ	変化の気づきと対応。医療職との連携																															
5 身じたくに関連したしくみ	身じたくにおけるところとからだのしくみ																															
6 身じたくに関連したしくみ	心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響																															
7 身じたくに関連したしくみ	変化の気づきと対応																															
8 食事に関連したしくみ	食事のしくみ																															
9 食事に関連したしくみ	消化器のしくみ																															
10 食事に関連したしくみ	心身の機能低下が食事に及ぼす影響																															
11 食事に関連したしくみ	変化の気づきと対応。医療職との連携																															
12 入浴・清潔保持に関連したしくみ	入浴・清潔保持のしくみ																															
13 入浴・清潔保持に関連したしくみ	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響																															
14 入浴・清潔保持に関連したしくみ	変化の気づきと対応。医療職との連携																															
15 まとめ・試験																																
[使用テキスト・参考文献] ところとからだのしくみ (中央法規)	[単位認定の方法及び基準] 確認テスト成績、授業態度、出席要件等を加味し、総合評価する。(基準：60 点以上を合格)																															

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) こころとからだのしくみⅢ	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 木村 あけみ																														
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 2 年 前期																														
必修・選択 必修																																
<p>【授業の目的・ねらい】 介護技術の根拠となる人体の構造や機能を理解のもと、介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 人体の構造や機能についての基本的な知識をふまえ、意欲や行動などに影響を及ぼす心理的な影響を理解し、それらが日常生活動作にどのように関連してくるのかを認識する。</p> <p>【授業修了時の達成課題 (到達目標)】 日常生活動作に関連したこころとからだのしくみが理解できる。</p> <p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>1 オリエンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2 排泄に関連したしくみ</td> <td>排尿・排便のしくみ</td> </tr> <tr> <td>3 排泄に関連したしくみ</td> <td>人工膀胱・人工肛門のしくみ</td> </tr> <tr> <td>4 排泄に関連したしくみ</td> <td>心身の機能低下が排泄に及ぼす影響</td> </tr> <tr> <td>5 排泄に関連したしくみ</td> <td>変化の気づきと対応。医療職との連携</td> </tr> <tr> <td>6 休息・睡眠に関連したしくみ</td> <td>休息・睡眠のしくみ</td> </tr> <tr> <td>7 休息・睡眠に関連したしくみ</td> <td>心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響</td> </tr> <tr> <td>8 休息・睡眠に関連したしくみ</td> <td>睡眠障害</td> </tr> <tr> <td>9 休息・睡眠に関連したしくみ</td> <td>変化に気づくためのポイント</td> </tr> <tr> <td>10 人生の最終段階のケアに関連したしくみ</td> <td>人生の最終段階に関する「死」のとらえ方</td> </tr> <tr> <td>11 人生の最終段階のケアに関連したしくみ</td> <td>終末期から危篤状態、死後のからだの理解</td> </tr> <tr> <td>12 人生の最終段階のケアに関連したしくみ</td> <td>終末期における医療職との連携</td> </tr> <tr> <td>13 人生の最終段階のケアに関連したしくみ</td> <td>「死」に対するこころの理解①</td> </tr> <tr> <td>14 人生の最終段階のケアに関連したしくみ</td> <td>「死」に対するこころの理解②</td> </tr> <tr> <td>15 まとめ・試験</td> <td></td> </tr> </table>			1 オリエンテーション		2 排泄に関連したしくみ	排尿・排便のしくみ	3 排泄に関連したしくみ	人工膀胱・人工肛門のしくみ	4 排泄に関連したしくみ	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響	5 排泄に関連したしくみ	変化の気づきと対応。医療職との連携	6 休息・睡眠に関連したしくみ	休息・睡眠のしくみ	7 休息・睡眠に関連したしくみ	心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響	8 休息・睡眠に関連したしくみ	睡眠障害	9 休息・睡眠に関連したしくみ	変化に気づくためのポイント	10 人生の最終段階のケアに関連したしくみ	人生の最終段階に関する「死」のとらえ方	11 人生の最終段階のケアに関連したしくみ	終末期から危篤状態、死後のからだの理解	12 人生の最終段階のケアに関連したしくみ	終末期における医療職との連携	13 人生の最終段階のケアに関連したしくみ	「死」に対するこころの理解①	14 人生の最終段階のケアに関連したしくみ	「死」に対するこころの理解②	15 まとめ・試験	
1 オリエンテーション																																
2 排泄に関連したしくみ	排尿・排便のしくみ																															
3 排泄に関連したしくみ	人工膀胱・人工肛門のしくみ																															
4 排泄に関連したしくみ	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響																															
5 排泄に関連したしくみ	変化の気づきと対応。医療職との連携																															
6 休息・睡眠に関連したしくみ	休息・睡眠のしくみ																															
7 休息・睡眠に関連したしくみ	心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響																															
8 休息・睡眠に関連したしくみ	睡眠障害																															
9 休息・睡眠に関連したしくみ	変化に気づくためのポイント																															
10 人生の最終段階のケアに関連したしくみ	人生の最終段階に関する「死」のとらえ方																															
11 人生の最終段階のケアに関連したしくみ	終末期から危篤状態、死後のからだの理解																															
12 人生の最終段階のケアに関連したしくみ	終末期における医療職との連携																															
13 人生の最終段階のケアに関連したしくみ	「死」に対するこころの理解①																															
14 人生の最終段階のケアに関連したしくみ	「死」に対するこころの理解②																															
15 まとめ・試験																																
[使用テキスト・参考文献] こころとからだのしくみ (中央法規)	[単位認定の方法及び基準] 確認テスト成績、授業態度、出席要件等を加味し、総合評価する。(基準：60 点以上を合格)																															